

平成 22 年度 松籟会全国研修会

開催日：平成 22 年 10 月 23 日(土)～ 24 日(日)

会場：ホテルスプリングス 幕張

講師・講義：小堀遠州流 十六世家元 小堀宗圓先生「口切りの茶事、茶壺について」
静岡文化芸術大学学長 熊倉功夫先生「小堀遠州と茶の湯」

参加者：120 名

全国から多数の参加者を迎え、恒例の全国研修会が開催されました。今年度は、家元の講義に加え、茶道史の研究でご高名な、静岡文化芸術大学学長の熊倉功夫先生を講師としてお招きすることができました。

一日目は、家元による口切りの茶事と茶壺についての講義がありました。茶壺や装束と関連するお道具類について、また幕末まで続いたお茶壺道中についてのお話の後、研修会参加者による実技を家元自ら指導されました。



二日目の熊倉功夫先生のご講義では、小堀遠州にまつわる様々なエピソードを伺い、幕府の有能な役人として精力的に勤める傍ら、芸術方面で多彩な才能を惜しみなく発揮している生き生きとした遠州公の姿を思い描くと同時に、穏やかでありながら確固とした姿勢を感じ取ることができました。



特に印象的だったのは、「桜山一有筆記」の中の、遠州公が、弟子の茶室に立ち寄り約束をしたものの、その家に行ってみると一家総出で掃除をしている様に興ざめして帰ってきてしまう。茶室は蜘蛛の巣が張っているくらいが良い、懐石料理も吸い物一つで良い、というくだり。茶の湯本来の清らかさが心に染み入るお話でした。



熊倉先生と家元との対談では、遠州公後の小堀遠州流の沿革や海外での茶会等についての興味深いお話がありました。また、今後の茶道のマーケティングにまでお話が及ぶと、熊倉先生が数々の実践的な提案を示され、目が覚める思いで拝聴しました。伝統や文化を後世に継承し続けるためには、時には新しい視点や考え方を取り入れる勇気を持つべきだと考えた参加者も多かったのではないのでしょうか。貴重なお話を直接伺うことができた有意義な研修会でした。